



# 矢野監督基金 娘の夢かなう

てきました。

1月は、一年の目標や夢を掲げるのに最適な時期です。

△今年はある人の応援のため、娘と甲子園球場へプロ野球を見に行きたいです▽

そんな新年の抱負を教えてくださいましたのは、京都市中京区の野村安見さん(41)。長女で幼稚園年長の心ちゃん(6)のお母さんです。「ある人」とは、阪神タイガースで現役時代は捕手として活躍し、新監督に就任した矢野燿大さん(50)。「監督に娘の元気な姿をみてほしい」とのこと。話を聞きに野村さん親子に会っ

「娘は矢野監督のお陰で、電動車いすを購入し、元気に動き回ることができるようになったんです」

野村さんが自宅の応接室で私に説明している間、心ちゃんは、電動車いすを操り、「走っている感じがいい」とソファの周りをぐるぐる回って元気がいっぱいです。

ところが4歳の頃まで、移動は野村さんの押すベビーカーだったため、自分の意思では動けなかったそうです。いすに座る際も滑り落ちないよう固定。全身の筋肉が衰え

ていく難病の筋ジストロフィーだからです。

そんな心ちゃんが幼稚園に入ると「友達と追いかけてほしい」と訴え始めました。でも電動車いすは何十万円もする上、体の成長に合わせて買い替えも必要です。野村さんが踏ん切れずにいる時に知ったのが「39(サンキュー)矢野基金」でした。

これは、ある筋ジストロフィー患者と出会った矢野監督が2010年、私財から作った基金で、手動や電動の車いすの購入に50万円まで補助する制度です。野村さんは17年10月、この助成で車いすを購入できたのです。

「自分で動けるようになっ

てから娘はすごく変わりました。それまでは幼稚園でじつと自分の席に座らされて、声をかけられるのを待つだけだったのに、自分から友達や先生にあいさつに行くようになった

「公園で友達と、どんぐりとか松ぼっくりを隠すこと」と人からは「監督に会えたら、伝えたいこと」として、こんなメッセージが届きました。

△車いすをありがとうとごさいます。友達と一緒に走る夢がかないました。4月からは小学生になります。新しいところで頑張るので、矢野監督も頑張ってください▽

心ちゃんの元気な姿を、いつか監督が目にするのがあれば、いいですねえ。

基金の窓口となっている大阪府社会福祉協議会によると、39矢野基金ではこれまで、50台以上の車いすの購入に助成してきたそうです。

それにしても、矢野監督、本業だけでなく、こんなふうに夢を与えられるとは、男前過ぎます。(上地洋美)

お便りは、〒530・8551 (住所不要) 読売新聞大阪本社社会部「日曜便」係、ファクスは06・6361・0733、メールはnichiyobin@yomiuri.comです。ウェブサイトで読むことができます。「日曜便」で検索を。